

## 平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

## 実施団体名

青森市

## 事業名称

地域マイレージシステムを活用したICカードとSCSによるコンパクトシティ形成事業

## 1. 事業実施概要

平成20年度に構築した青森SCSシステム利用者に対するポイント活用メニューの充実や、観光客等に対するパブリックディスプレイの機能拡充など、システムの利便性・汎用性を高めるとともに、市民の環境付加低減に対する取組を適正なCO2削減量として定量化・評価する仕組みを構築しました。

また、当該システムが持つ社会性や市民レベルの環境活動を促進する仕組みを企業等のCSR(地域貢献)活動として高めるためのPR活動や自立的運営に向けた調査研究を行いました。

## 2. 目標の進捗状況

平成22年3月24日現在

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
ポイント活用量	1,300人	1,313人	○	データ管理システム
SCS登録者数	3,000人	4,715人	○	データ管理システム
環境家計簿参加者数	300人	348人	○	データ管理システム
SCSへの書き込み数	1,200人	29,455人	○	データ管理システム
まちなか満足度	3.69点以上	3.77点	○	登録者アンケート

## 3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

全て達成

## <委託業務説明書>

### 1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

<ICカードシステム（決済機能）の地域での実施・運営が困難>

ICカードシステムに参加する店舗の使用料の調整や、ICカードシステムの事務局機能を担う運営主体などの体制整備など、その実施・運営にあたっては関係者の合意形成に多くの時間を要するとともに、決済端末の設置などの機器の整備に多くの費用が必要であるなど、現在の経済環境を背景にその実施・運営が困難な状況にあります。

そのため、本市では、商店街などの関係者との意見交換を実施するなど、カード決済の実現を長期的な目標として設定し、その取組を継続的に実施することとしています。

一方で、市内7大学の学生が有するICカード（ASCaパスカード）を活用し、当該学生が実際に行ったボランティア活動に対してポイントを付与し、そのポイントと景品等を交換するマイレージシステムの構築については、7大学の連携組織である「大学コンソーシアム青森」と既に協議中であり、来年度初旬の実施を予定しています。今後は、大学生が取り組みやすいボランティアメニューのリスト作りや、地域のボランティア団体との連携などについて調整を行い、大学生が当該システムを活用しやすい環境づくりを進めていきます。

### 2 自律的・継続的運営の見込み

本事業は、平成19年度の総務省「UAA2007実証実験」で得たネットワーク構築・運営ノウハウ、多様な主体による人的資源等、既存ストックを有効活用して構築したものであり、本市と青森SCS実行委員会が連携・協力して運営してきました。

青森SCS実行委員会は、昨年2月に「特定非営利活動法人ソーシャル・キャピタル・サービス青森」としてNPO法人化される等、組織力・経営力を強化するとともに、中心市街地の空き店舗を活用し、情報発信や活動の拠点となる「まちなかステーション」の開設や、電動自転車のレンタル事業を開始予定であるなど、新たな事業展開により安定的な運営が見込まれるとともに、当該事業の発展的な継続が期待できることから、来年度以降は、本市が本事業によって構築したシステムの使用許諾を同NPOに与えるなど、引き続き本市が連携・協力するものの、同NPOが主体となり運営していくこととしています。

### 3 今後の展開方針

本市が進めているコンパクトシティの実現に向け、コミュニティの活性化、地域内の移動支援による回遊性の向上、環境活動等をマネジメントしようとする視点は欠かせず、ICTの活用によりそれらを解決するモデルとして構築します。

青森マイレージシステムは、地域イベント情報の発信や環境負荷低減活動等、地域貢献活動を市民が過度の負荷を感じずに継続的に実施する新たな市民協働のモデルとして構築します。

また、当該システムについては、事業者、市民、行政との協働による環境活動やコミュニティ活性化活動など、高い社会性及び経済性を兼ね備えていることから、多くの市民や企業の参加による広告料や協賛金収入などが期待されるとともに、運営主体の自主事業による収入などにより、当該NPOによる将来の自律運営を目指します。

## <実施体制説明書>

### 1 実施体制

(目的)

事業の実施に当たり、地域住民の意向の反映と、事業の継続的な運営方策の検討

#### 1. 青森市 I C Tまちづかい協議会

(目的)

コンパクトシティの形成による持続可能なまちづくりの実現

#### 2. 青森市 (協議会事務局)

(目的)

コミュニティの活性化等を図るための青森 S C S 構築業務等の実施

#### 3. 東日本電信電話株式会社 青森支店

### 2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	青森 I C Tまちづかい協議会	本事業の企画立案・展開に関する調整機関として設立し、本事業の円滑な実施に向けた助言及び支援を行う。(別添「設立要綱」及び「委員名簿」、「議事要旨」参照)
2	青森市	事業を円滑に進捗させるため、各主体の連絡調整や、事業成果を向上させるための各種業務を行う。
3	東日本電信電話株式会社 青森支店	本市からの委託を受け、青森 S C S 構築等業務を行う。(別添「青森 S C S 構築等業務仕様書」参照)

## 事業実施進行表

実施内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22 1月	2月	3月
	協議会・部会の開催					▲		▲	▲			
基盤（既存）システムの運用	→											
システム（環境家計簿システムの拡張含む）構成の検討・決定	→											
システム構築委託業者選定・契約				→	▲							
システム設計					→							
システム構築							→					
システム稼動									→			
周知・PR・協力企業等の募集									→			
自律的運営の調査研究					→							
システム機能評価											→	
報告書作成											→	

## その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] 構築ウェブサイト <http://www.aomori-ubi.jp/> [青森SCS]

[2] 掲載ウェブサイト <http://www.city.aomori.aomori.jp/> [青森市HP]

<http://www.city.aomori.aomori.jp/view.rbz?nd=1140&ik=1&pnp=116&pnp=119&pnp=1099&pnp=1140&cd=1874> [掲載ページ]

平成22年3月31日

## 平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：青森市

事業名称：地域マイレージシステムを活用したICカードとSCSによるコンパクトシティ形成事業

## 1 概要

平成20年度に構築した青森SCSシステム利用者に対するポイント活用メニューの充実や、観光客等に対するパブリックディスプレイの機能拡充など、システムの利便性・汎用性を高めるとともに、市民の環境付加低減に対する取組を適正なCO2削減量として定量化・評価する仕組みを構築しました。

## 2 運用結果（平成22年3月24日現在）

&lt;システム利用状況&gt;

ポイント活用量	1,313人
SCS登録者数	4,715人
環境家計簿参加者数	348人
SCSへの書込み数	29,455人
まちなか満足度（5点満点）	3.77点

## 3 課題・改修の必要性

- （1）青森SCSにおけるコミュニティの活性化及び社会性の向上
- （2）マイレージポイントの自律的運用に向けた協賛企業等の増強
- （3）市民レベルの環境負荷低減活動の促進
- （4）ICカードシステムの機能強化
- （5）他団体の取組との連携による当該システムの機能拡充

## 4 その他

活用したネットワーク種別・伝送速度

民間通信ネットワーク（パブリックディスプレイによる情報配信）

F T T H : 1 0 0 M b p s